

# サッカーにおけるゴールキーパーを起点とする 攻撃に関する研究

鹿島 寛彬

## A Study of the Goalkeeper Attacks from the Start in Soccer

Hiroaki KASHIMA

### I. 緒言

現代サッカーにおけるゴールキーパー（以下GK）に求められる役割は多様化している。GKはサッカーにおいて、試合中に唯一手を使うことが許されているポジションであるためGKのプレーを制限する競技規則が多く存在し、近年では現代サッカーのトレンドや戦術の変化に対応する形で、競技規則の改正がなされている。競技規則改正やJFA Technical Study Groupの報告を受け、GKの攻撃の起点としてのプレーを分析する研究・報告が多くされるようになった。しかし既存の研究・報告は、GKのプレー数のみを記録したものが多く、プレーの質にまで言及した分析は少ない。またトップレベルのGKと育成年代のGKのプレーを比較した研究もあまりされていない。育成年代のGKが目指すべきプレーは、ワールドカップなどに出場しているトップレベルのGKのプレーであるため、トップレベルと育成年代を比較し、プレー数やプレーの質の違いを明らかにすることは、育成年代のGK指導に有用な資料となり得る。

そこで本研究では、2010 FIFA World Cup South Africa（以下WC2010）、UEFA Champions League 09/10（以下CL09/10）、第10・11回豊田国際ユースサッカー大会（以下TIYCS09, 10）を対象に、トップレベルと育成年代のGKが攻撃の起点としていかにプレーしているのか明らかにするとともに、分析により得られたデータを比較・検討することで、育成年代のGKにおける課題を明らかにし、今後のGK育成の基礎的な資料とすることを目的とした。

### II. 研究対象・方法

#### 1. 分析対象・分析項目

本研究における分析対象はWC2010全64試合、CL09/10決勝トーナメント全29試合、TIYCS09全6試合、TIYCS10全6試合の計105試合とした。GKのプレーをオープンプレー・バックパス処理・セットプレーに分類し、それぞれの全プレー数、パス成功数、パス成功後の攻撃成功数を配球方法別・配球エリア別に記録した。配球方法はショートパス（以下SP）、ロングフィード（以下LF）、パントキック（以下パント）、アンダーアームスロー（以下アンダー）、オーバーアームスロー（以下オーバー）の5項目とし、配球エリアはAttacking Third（以下Attacking）、Middle Third（以下Middle）、Defending Third（以下Defending）の3項目とした。

#### 2. 分析方法・統計処理

分析項目に挙げた項目に対し、全プレー数、パス成功数、パス成功後の攻撃成功数、それぞれの1試合平均プレー数を算出し、WC2010、CL09/10、TIYCS09, 10の各大会間で比較した。統計処理については、各大会間の数値を1元配置分散分析後Tukey's Testにより多重比較検定を行った。なお危険率は5%未満を有意水準とした。

### III. 結果及び考察

#### 1.1 試合平均パス成功数の大会間比較

配球方法別1試合平均パス成功数について、オープンプレーのLFはTIYCS09, 10が $0.40 \pm 0.42$ 回、CL09/10が $2.19 \pm 1.29$ 回、WC2010が $1.35$

± 0.99回であり、TIYCS09, 10・CL09/10間、TIYCS09, 10・WC2010間、CL09/10・WC2010間でそれぞれ有意差が認められた。バックパス処理のLFでは、TIYCS09, 10が $0.38 \pm 0.39$ 回、CL09/10が $1.90 \pm 1.19$ 回、WC2010が $0.94 \pm 0.72$ 回であり、TIYCS09, 10・CL09/10間、TIYCS09, 10・WC2010間、CL09/10・WC2010間でそれぞれ有意差が認められた。

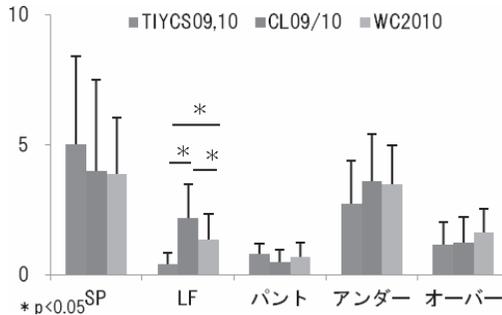


図1 Open Play1 試合平均パス成功数 (配球方法)

オープンプレーの配球エリア別1試合平均パス成功数について、Attackingへの配球は、TIYCS09, 10が $0.17 \pm 0.05$ 回、CL09/10が $0.71 \pm 0.20$ 回、WC2010が $0.65 \pm 0.16$ 回であり、TIYCS09, 10・CL09/10間、TIYCS09, 10・WC2010間でそれぞれ有意差が認められた。Middleへの配球は、TIYCS09, 10が $1.79 \pm 0.19$ 回、CL09/10が $2.72 \pm 0.61$ 回、WC2010が $2.34 \pm 0.31$ 回であり、TIYCS09, 10・CL09/10間、TIYCS09, 10・WC2010間、CL09/10・WC2010間でそれぞれ有意差が認められた。

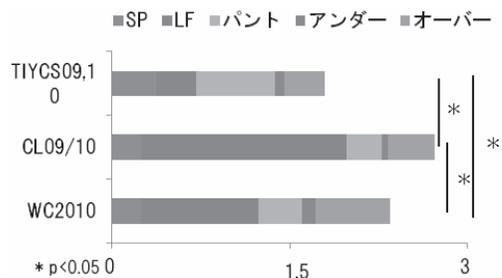


図2 配球エリア別 Open Play1 試合平均パス成功数 (Middle)

現代サッカーの発展は守備力の向上によるものが大きい。守備ブロックを形成されてしまうと突破は非常に困難である。そのため攻撃の戦術として、相手の守備ブロックが形成される前に攻撃を仕掛ける必要がある。JFA Technical Study Groupでは、このような現代サッカーの流れを「ファストブレイクをめぐる攻防」としている。ファストブレイクを奪うための攻撃として、手数と時間をかけないカウンター攻撃が挙げられる。トップレベルのGKは相手守備ブロックの一瞬の間を見逃さず、LFによりカウンター攻撃を仕掛けていたと考えられる。トップレベルと育成年代間でLFによる配球とAttacking, Middleへの配球のパス成功数が有意に多かったことから、トップレベルのGKは質の高いLFにより相手ゴールにより近い位置へボールを配球し、効果的なカウンター攻撃を可能にしていたと考えられる。

セットプレーについて、ゴールキック (以下GKick) のSPではTIYCS09, 10が $3.17 \pm 1.62$ 回、CL09/10が $1.98 \pm 1.43$ 回、WC2010が $3.31 \pm 1.52$ 回であり、TIYCS09, 10・CL09/10間、TIYCS09, 10・WC2010間でそれぞれ有意差が認められた。GKickのLFではTIYCS09, 10が $1.29 \pm 0.77$ 回、CL09/10が $3.08 \pm 1.20$ 回、WC2010が $2.44 \pm 1.30$ 回であり、TIYCS09, 10・CL09/10間、TIYCS09, 10・WC2010間、CL09/10・WC2010間でそれぞれ有意差が認められた。フリーキック (以下FK) のSPではTIYCS09, 10が $0.71 \pm 0.45$ 回、CL09/10が $0.69 \pm 0.54$ 回、WC2010が $0.93 \pm 0.64$ 回であり、TIYCS09, 10・CL09/10間、TIYCS09, 10・WC2010間、CL09/10・WC2010間でそれぞれ有意差が認められた。FKのLFではTIYCS09, 10が $0.25 \pm 0.32$ 回、CL09/10が $0.97 \pm 0.63$ 回、WC2010が $0.75 \pm 0.67$ 回であり、TIYCS09, 10・CL09/10間、TIYCS09, 10・WC2010間、CL09/10・WC2010間でそれぞれ有意差が認められた。

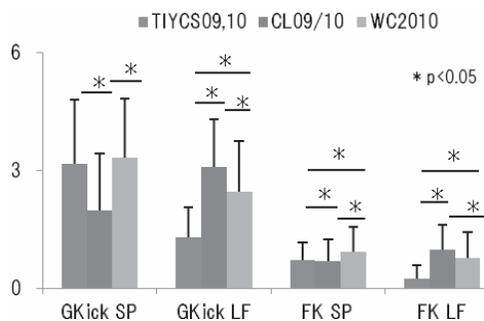


図3 大会別 Set Play1 試合平均パス成功数 (配球方法)

#### IV. 結論

- 1) オープンプレーのLF1 試合平均パス成功数は、WC2010とTIYCS09, 10の間、CL09/10とTIYCS09, 10の間、WC2010とCL09/10の間でそれぞれ有意差が認められた。
- 2) オープンプレーの1試合平均パス成功率・攻撃成功率が高いチームはWC2010, CL09/10, TIYCS09, 10において、上位に勝ち上がる傾向が見られた。GKの攻撃の起点としてのプレーが、試合の勝敗に影響していると考えられる。
- 3) セットプレーの1試合平均パス成功数は、GKickのSPがWC2010とTIYCS09, 10の間、WC2010とCL09/10の間で有意差が認められ、GKickのLF, FKのSP・LFがWC2010とTIYCS09, 10の間、CL09/10とTIYCS09, 10の間、WC2010とCL09/10の間で有意差が認められた。

以上のことから、トップレベル・育成年代間のGKのプレーはLFによるパス成功数・攻撃成功数の差が顕著であるという結果が得られた。守備の強固な現代サッカーにおいて、攻撃の戦術はカウンター攻撃とポゼッションサッカーの共存が必要であると考えられる。育成年代のGKには、攻撃に効果的なプレーを判断し選択する能力とともに、LFの質の向上、セットプレーのパス成功率・攻撃成功率の向上が今後求められると示唆された。

#### V. 参考文献

- 1) 財団法人日本サッカー協会：サッカー指導教本2007, 財団法人日本サッカー協会技術委員会 (2007)
- 2) 財団法人日本サッカー協会：LAWS OF THE GAME サッカー競技規則2010/2011, 財団法人日本サッカー協会 (2010)
- 3) 財団法人日本サッカー協会2010 FIFAワールドカップ南アフリカ JFAテクニカルレポート, JFA Technical Study Group (2011)
- 4) Kosaku Ito et al.: Effectiveness of Amendments of the Laws of the Game to the Goalkeeper in Soccer, Football Science Vol.1 1-7 (2004)

(指導教員 鬼頭 伸和)